

# 車いす体験 基本的な流れ

資料②

## 前日

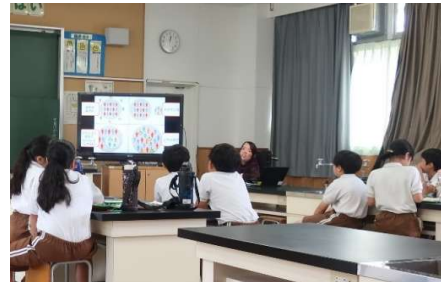
当日使用する車いすと段差板(8枚)の借用返却は先生にご対応いただきます。  
※借用先は豊田市福祉センターまたは障がい者福祉会館です。  
※原則、実践教室の前日借用・当日返却をお願いします。  
※車いすの台数は児童・生徒2名が基本です。



## 体験

### <車いすの乗り方説明>

車いす利用者と介助者が車いすの組み立て方、乗り方、介助の仕方、注意点をお話します。



## 体験

2人1組で車いすに乗る役と介助者に分かれて体験します。コースを一周したら介助者と交代して全員が体験します。  
【コース例】  
体育館内、廊下、中庭、体育館の入口などの段差、スロープ、手洗い場で手を洗う

## 講話

車いすに乗りながらの生活について、車いすに乗っていてもみんなと同じがいいという思い、などの内容の講話をします。希望の内容と時間を事前に講師と打ち合わせしてください。

## 振り返り

児童・生徒に感想や気づいたことを発表していただきます。その意見を基に、体験の振り返りとまとめのお話をします。

# 多様性を理解する交流プログラム（車いす）の流れ

資料②

1日目 車いす講話・体験

2日目 風船バレー①

3日目 共感を育む講話

4日目 風船バレー②

目的

- ・障がいをつくっているのは社会側であるという考え方を知る。
- ・車いすに乗りながらの生活について知る
- ・車いすに乗っていても、みんなと同じ生活を望んでいることを知る
- ・車いすを使用した介助をする、介助を受ける体験を通して、学校にある障壁への気づきを促す。

- ・障がいのある方に対して不便さ(障壁)を生む体験をする。
- ・自分たち自身も不便さや生きづらさがあることに気づけるきっかけとする。
- ・配慮の無い状態では、講師と児童みんながバレーをたのしめないことに気づく。
- ・講師と児童みんなでのたのしむための工夫(合理的配慮)の必要性に気づく。

- ・講師がどのような暮らしを送っているのかを知る。
- ・自分たちと同じことと違うことに気づく。
- ・合理的配慮は何かを知る。
- ・風船バレー①をやってみて、嬉しかった・楽しかったこと/嫌だった・難しかったことを出し合う。
- ・嫌だった・難しかったことを解消するための工夫(クラス独自のルール)を考える。

- ・自分たちが考えた工夫(合理的配慮)により、みんなでのたのしむことを経験する。
- ・どんな学校、地域になればいいのか、みんな(自分、講師、他の障がい者、高齢者、外国人など)が幸せになる社会とはどんな社会か、考える。

流れ

## 体験

### <車いすの乗り方説明>

車いす利用者(以降講師と呼ぶ)と介助者が車いすの組み立て方、乗り方、介助の仕方、注意点をお話します。



## 体験

2人1組または3人1組で車いすに乗る役と介助者に分かれて体験します。コースを一周したら介助者と交代して全員が体験します。  
【コース例】  
体育館内、廊下、中庭、体育館の入口などの段差、スロープ、手洗い場で手を洗う



## 講話

車いすに乗りながらの生活について、車いすに乗っていてもみんなと同じがいいという思い、などの内容の講話をします。



## 振り返り

児童に感想や気づいたことを発表していただきます。その意見を基に、体験の振り返りとまとめのお話をします。

## 導入

先生から、風船バレーの目的、ルール、安全上注意点や全体の流れを説明を受けます。児童には「目的は講師との交流」とだけ伝え、プログラムの意図については知らせません。

## 導入

作戦会議 → 試合 → 移動

## 風船バレー

1クラス2試合ずつ同時に試合を進めます。講師がすべてのチームに入り、児童みなさんが交流し共に風船バレーを行います。

## まとめ(約15分)

先生から講師に感想を聞いてください。講師からは改善点や課題への気づきを促すための**ネガティブな感想**も伝えます。その後、講師から児童・生徒に感想を聞きます。講師からの感想を踏まえ児童・生徒からも**ネガティブな感想**を聞き出します。(先生のご協力も必要となります。)

## 振り返りシート※別紙2

実施後振り返りシートを記入します。(時間内に難しい場合、別途時間を設けます。)

## 動画視聴

肢体不自由の方がどんな暮らし方を送っているのかを学びます。  
(動画開始～2分40秒、8分00秒～最後までを再生)



## 「同じこと」と「違うこと」を考える

動画視聴を通して、講師と自分自身との同じこと、違うことを考えて発表します。



## 風船バレー(1回目)の振り返り

事前に記入していただいた振り返りシートを基に、楽しかったこと、嫌だったことを児童が発表します。



## 風船バレー(2回目)のルールを考える

講師と児童みんなが風船バレーを楽しむためのクラス独自のルールを考え、決めます。講師と話し合い、講師と児童と一緒に楽しむことができるルールを考える時間とします。(例：道具を作成する場合に重さや大きさの程度・名札をつける場合に見やすい位置等)



授業内で決められなかった場合は、準備のための授業調整にご協力をお願いします。(講師は来校しません)

## 2日目風船バレー①と同様の流れ

授業の最初に、クラスで決めたルールを児童・生徒から講師と共有してください。



## まとめ(約15分)

先生から講師へ感想を聞いてください。クラスで決めたルールの感想をお伝えした後、講師から児童への感想を聞きます。4日間を通した学びの振り返りを行います。

集合写真の撮影は最後の時間で行ってください。

# 点字 基本的な流れ



自助具等を紹介している様子  
(写真は点字雑誌を紹介しています)



こんなところにも点字がついているよ  
(ガムのパッケージ、ポンド、ジャムの瓶等)



音声色彩判別装置を使って制服の色を  
確かめている様子



糸通しをしている様子

## 講話

講話の内容は先生のご希望に合わせます。希望の内容を打ち合わせ時に講師へお伝えください。

【講話例】普段の生活の話、どのように視覚が不自由になったのか、普段使っている自助具について、意外と気が付かない身近な点字のついたもの、(女性講師の場合)糸通しを見せる、子育ての話、(古家さんの場合)義眼を見せる、色識別装置を使って色を知る等



## 点字の打ち方の説明

やさしさはほっとするやイラストなどを交えて分かりやすく点字の基本と主なルールを説明します。  
※やさしさはほっとするや点字器等を、生徒に事前に配布して下さい。



## 点字体験

簡単な単語(あおいそら等)/自分の名前/学校名/やさしさはほっとするに記載の例文など・・・  
低学年の場合、濁音や拗音を使用しない簡単な単語が易しく取り組みます。  
学校のご要望に合わせた点字体験を行います。希望の内容を講師にご相談ください。



## 点字体験

できた点字の文章を講師に読んでもらいます。

# 盲導犬 基本的な流れ

資料②



自助具等を紹介している様子  
(写真は補助犬マークを紹介しています)



講師が盲導犬と歩いているところを見ている様子

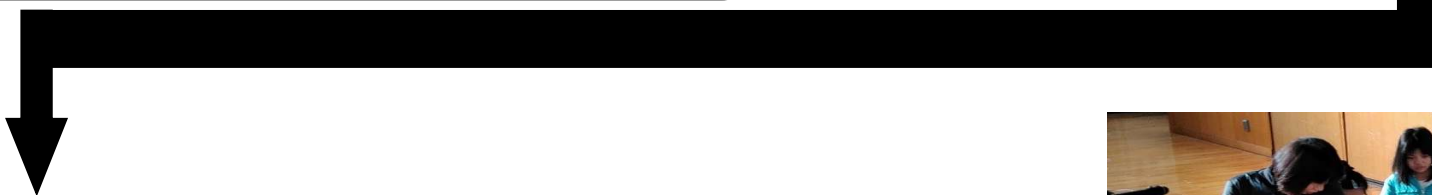
## 講話

講話の内容は先生のご希望に合わせて。希望の内容を打ち合わせ時に講師へお伝えください。

【講話例】普段の生活の話、どのように視覚が不自由になったのか、普段使っている自助具について、意外と気が付かない身近な点字のついたもの、子育ての話、義眼を見せる、色識別装置を使って色を知る等

## 体験コースの見学

講師と盲導犬が実際に歩く様子を児童・生徒が見ます。  
※「盲導犬の見学コース設定について(例)」を参照してください。



児童・生徒が講師を案内している様子

視覚障がいの方に対する道の案内方法を考えよう  
町の中で、視覚障がいのある方に出会ったとき、どのように声をかけ、どのように道案内をすればよいのかを考えてみましょう。相手の気持ちや状況を想像しながら、「どんな声かけが安心につながるのか」「どんな伝え方が分かりやすいのか」をみんなで考えていきます。



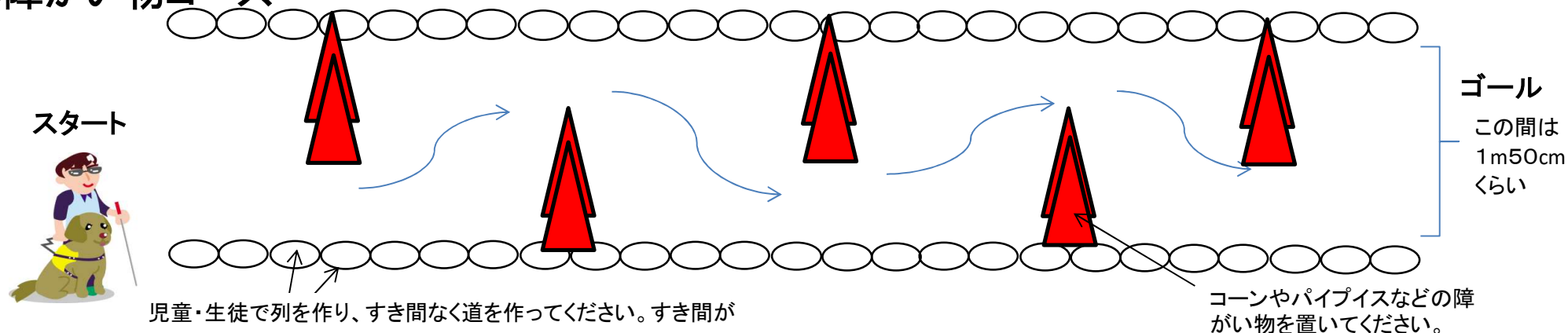
## 質疑応答・講師との交流

講話・体験コースの見学をうけて、児童・生徒が気になったことを講師に質問します。

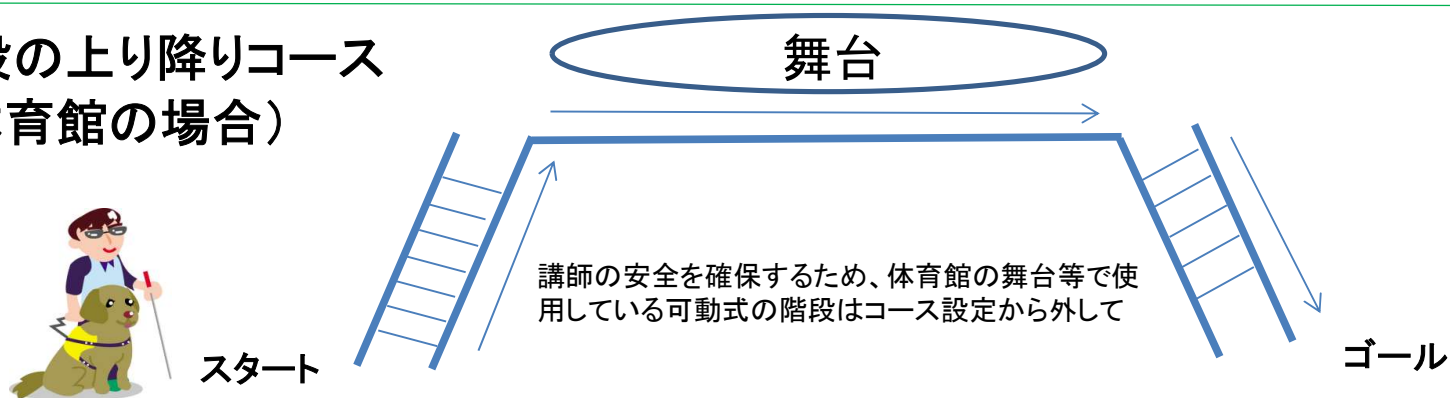
# 盲導犬の見学コース設定について(例)

資料②

## ①障がい物コース



## ②階段の上り降りコース (体育館の場合)



## イメージ写真

体育館



校舎内



# アイマスク体験 基本的な流れ

資料②

**アイマスク体験までの事前学習**  
自分たちの普段の生活（お風呂・食事など）を思い出しながら、目が見えない人も同じように生活していることに気づいてみましょう。その中で、どんな工夫があるのかを考えてみましょう。



**導入**  
事前学習を踏まえた視覚障がい者についての講話。五感について、見え方の違いや白杖についての説明、障がいの程度は様々であり先天性と後天性があるということ、視覚障がい者の生活などの内容をガイドヘルパーがお話します。

**声の聞こえる方向が変わる体験**  
全員にアイマスクを渡し、装着していただきます。アイマスクを装着した状態で、講師が話をします。始めは生徒の正面に立って話しますが、次第に後ろから話すなど方向を変えて話をします。音の聞こえる方向が急に変わる体験を通し、視覚障がいの方に対し、どのような声かけが良いかを考える機会になります。



**声と指の感覚のみで折り紙を折る体験**  
講師から声のみで折り方を伝えていきますので、アイマスクを装着した状態で声のみの説明と指の感覚を使い、見えない状態で折り紙を折ります。その後、アイマスクを外し、見える状態で折り紙を折ることで、見えるときとそうでないときの違いや注意点を確認します。

左：色柄音声認識装置を使い、服の色を音声案内している様子  
右：音のなるピンポン玉を使い、ゲームをしている様子

**自助具体験**  
講師より視覚障がいのある方向への自助具を紹介しします。その際に、アイマスクを装着した代表の生徒数名に実際に使用していただき、感想などを聞いていきます。視覚に障がいがあっても道具や少しの工夫があれば自分で生活できることに気づきます。

**まとめ**  
街中で視覚障がい者と出会ったら、生徒ができることを説明します。質問等があればこの時間に伺います。

# 手話体験 基本的な流れ

資料②



**講話(聴覚障がいとは、どんな生活をおくっているのか等)**  
障がいには、「見える障がい」「見えない障がい」があります。聴覚障がいは「見えない障がい」であり外見からは分かりにくい。聞こえないためにいろいろな情報が入ってこない(例:後ろから近づいて来ている自転車に気づけない)などの話をします。耳がきこえない、きこえにくい人はどんな生活を送っているのか生活のお話をさせていただきます。講話内容のご要望を講師にお伝えください。



**聴覚障がい者とのコミュニケーション方法について**  
聴覚障がい者＝手話と思われがちだが、「手話」以外にも「口話」「身ぶり」「空書き(そらがき)」「筆談」といった、様々なコミュニケーション方法がある。手話以外の方法も体験してもらいます。



**口話体験**  
言葉を発する口の形で言葉を伝え合います。講師の口、児童・生徒同士の口を読み取ります。写真のように口の形の似ている言葉や文章は読み取れますか？



**身ぶり体験**  
児童・生徒の代表に身ぶりで何かを表現してもらいます。(動物・食べ物など)写真はブドウを表現しています。



**手話体験**  
あいさつ／数字／色／自分の名前／伝言ゲームなど・・・学校のご要望に合わせた手話体験を行います。



**質疑応答**  
授業の最後には、時間が許す限り質疑応答の時間を設けます。手話体験に関する疑問や講話の中で気になったことがありましたら、ご質問ください。

# 書いて伝える体験 基本的な流れ

資料②

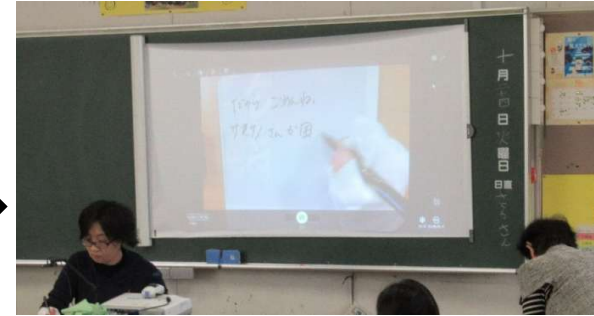
## 「講話」

聞こえにくさは千差万別です。日常生活の困った！と感じていること、またどんな工夫をしながら暮らしているのかをお話します。

きこえない(きこえにくい人)は、その人の聞こえ方に合わせて、さまざまな方法でコミュニケーションをとっています。

よりよい会話のために、コミュニケーションのコツを教えます。

例) 紙芝居、スライド、クイズ等



## 「要約筆記・筆談のコツについての説明」

要約筆記と筆談の必要性をお話します。  
筆談のコツを聞いて体験します。



## 「書いて伝える体験(要約筆記・筆談体験)」

近くに聞こえにくい人がいるという設定で、子どもたちの身近にあふれる場面や災害時の避難所などを想定した内容の「書いて伝える体験」を行います。

## 「まとめ」

耳マークやコミュニケーション支援ボードの紹介など、子どもたちに知っておいてほしいことを最後にお伝えします。質疑応答など。

# 発達障がいと自閉症についての理解 基本的な流れ

資料②



ADHDの体験が入ることがあります。  
※高校の場合



授業を進める中で、話に出てきた関わり方の「よい例」「わるい例」を掲示して、目で見て分かるようにします。

## 講話

・はっぴいりんごの会の紹介  
・自閉症の特徴や割合などについて簡単にお話

## 体験①ぶかぶかの軍手をはめて、折鶴を作ろう

指先の感覚が違う人もいること、本人は一生懸命取り組んでいても、なかなかうまくできないこともあるので「急いで」「汚い」などの声掛けをされると気持ちが焦ってしまうので、「ゆっくり待つ」ということが大切だということを理解します。



## 体験②よく見えないペットボトルメガネを使って写真を見てみよう

視野が狭く、全体を見渡すことが苦手だとどんな風に見えるのか体験します。

## 体験③動物クイズを4人が同時に出题

4人が同時に違う文章を喋ったときに、誰が何を言っているのかが聞きづらい体験。周りがざわついていると、1つの音を聞くことが難しいということを分かってもらいます。

## <休憩>

・講師の家庭で使っている自助具の見学  
・授業中に軍手の体験やペットボトルの体験ができなかった子も自由に体験できます。



お母さんの話  
子どもが生まれた時からの生き立ちをパワーポイントや写真を通してお話します。



まとめのお話  
体験を通して学んだ自閉症の方との接し方や、自閉症の子を持つ母としての思いをお話します。

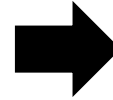
## 体験④ピカピカ劇場

「ピカ」しか言葉がない世界で、言葉が伝わらないとどう感じるのか体験します。  
※先生に劇に協力していただきます。

## 体験⑤ことばを絵にしてみよう

固有名詞や形容詞をテーマに絵を描く(例:リンゴ、5個、ちゃんと、平和など...)言葉には「見える言葉(絵にできる言葉)」と「見えない言葉(絵にできない言葉)」があることを体験を通して理解する。  
自閉症の人には「見える言葉」でものごとを伝える、という説明をします。

# ダウン症についての理解 基本的な流れ



## エンジェルの会について

エンジェルの会についてご紹介します。また、エンジェルの会に所属しているダウン症の子どもたちの、生まれてから現在に至るまで元気に活躍している姿についてご紹介します。  
(講師の方以外に、実際に実践教室を行う学校に通っている子どもがいる一般の保護者の方にもお越しいただき、お話しをもらう場合もあります。)

## 知的障がい、ダウン症について

障がいには聴覚障がい、視覚障がいなど色々な種類がありますが、その中で知的障がいとはどういったものか、またダウン症とはどういった障がいなのか、お話しします。

## DVD鑑賞「あしたへジャンプ」(20分)

ダウン症の少年が主人公のDVDを鑑賞します。  
遊び相手がおらず、一人で遊んでいるダウン症のある少年が、家族・クラスの仲間の思いやりの気持ちによって輪の中に入ることができるようになるまでのストーリーです。

## ダウン症の方の特徴

書籍「ダウン症の子どもたち」に基づき、ダウン症の方の考え方や行動の特徴について、ご紹介します。ダウン症の子がどんな生活を送っているのか単純な疑問を交えてお話しします。(プールに入れるのか、車の運転はできるのか等)※講師から黄色いミニ冊子を配布します。この冊子に基づく説明になります。

## 親の立場からの思い

ダウン症の子を持つ母としての思いについて、子どもたちへ向けてメッセージを送ります。



## 【主な必要物品】

- ・マイク 2本 (スピーカー)
- ・マイクスタンド
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・長机 2脚
- ・講師用のいす 5脚 等

## 【当日について】

- ・スクリーンに投影するため、暗幕のある部屋のご用意をお願いします。
- ・投影資料・配布資料については、当日講師が持参します。(事前に必要な場合はFAXにて送ります。)

# 高齢者擬似体験 基本的な流れ

資料②

## 高齢者擬似体験までの事前学習

【高齢者ウォッチング】

高齢者の素敵どころ、大変なところを探してみる



## 導入

事前学習を踏まえた高齢者についての講話



高齢者擬似体験セットの装着方法の説明



## 高齢者擬似体験セットの装着

体験者・介助者のうちの1人の体験者が装着します。装着後、A～Cの体験の中からいくつかを行います。体験後、体験者と介助者の役割を交代し、体験します。

## 体験

# A



### 「指の動きにくさ」

【体験者】

指や手が思うように動かず、時間がかかることを体験します。

【介助者】

相手を待つこと、介助者の声掛けの大切さに気づきます。

# B



### 「歩行」「足の曲げにくさ・上げにくさ」

【体験者】

足の曲げにくさ、上げにくさを体験します。

【介助者】

高齢者にとって、どんなサポートがあるとよいか気づきます。

# C



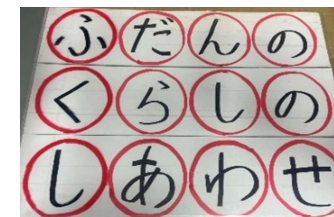
### 「見えにくさ」

【体験者】

ゴーグルをつけて、色、文字の大きさ等、見え方の違いを体験します。

【介助者】

高齢者にとって、見えにくい色、文字の大きさ等を理解し、声掛けの大切さに気づきます。



### 振り返り

生徒に感想や自分のできるお手伝いについて発表してもらい、それを基に、振り返りをします。(ふくしとは、高齢者から幸齢者へ、等)

## 全ての体験に共通すること

【体験者】

介助の必要な高齢者になりきる

【介助者】

思いやりをもって声掛け、介助をする

【装着例】



## 高齢者擬似体験 装具の装着について

指の第一関節が出る程度までサポーターを装着



a: ゴーグル、b: イヤーマフ  
白く濁ったレンズの入ったゴーグルで、白内障と視野狭窄の体験をします。イヤーマフをつけ、音が聞こえにくくなる体験をします。イヤーマフと耳が直接触れないよう、タオル等をかけます。



c: おもり、d: 手袋・サポーター  
手袋(薄い手袋とサポーターの2枚重ね)で指先の感覚の鈍さ、おもりで筋力の低下を体験します。



e: 手・脚関節サポーター(中学生以上が装着)  
サポーターで関節の曲がりにくさを体験します。サポーターと肌が直接触れないよう、バンダナ等をまいた上に装着します。

◎セット内容◎ ※c,d,eは利き手側に装着



a: ゴーグル



b: イヤーマフ



c: 手(1kg)・足(1.5kg)おもり



d: 手袋・サポーター



e: 手・脚関節サポーター(大きいサイズ・小さいサイズ)